



INTERVIEW

## 福島で、実現する。

あなたが実現したいことは、なんですか？

先輩職員インタビュー

「若い世代に、福島環境の

『これから』を考えてもらいたい」

所属

生活環境部 環境共生課

● これまでの経歴(所属年度)

H25～H26 生活環境部 生活環境総務課

H27～H29 相双地方振興局 県民環境部環境課

H30～ R2 いわき地方振興局 県民部県民生活課

R3 ～ 生活環境部 環境共生課



化学

Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 環境創造センターは原発事故により大きな被害を受けた福島県の環境の回復・創造のため、モニタリングや調査研究、情報発信、環境教育等を行っている施設であり、私は、環境創造センターの予算の確保や関係機関との調整などの業務を担当しています。

放射線や環境問題について学ぶことができる交流棟（コミュタン福島）を利用する子どもたちに、県の現状について興味を持ってもらったり、それぞれの立場から県の未来を考えるきっかけを提供したりするような業務に携われることにやりがいを感じています。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていること

A. 学生などの若い世代の方々に、福島県の環境のこれからのことについて考えてもらえるように、日々の業務に取り組んでいます。例えば、令和3年11月に開催した地球温暖化対策啓発イベントでは、たくさんの方に会場いただき、県の取組を紹介することができました。イベント、HP、SNS等での情報発信など、周知の方法は様々ですが、若い世代の方々がこれからの福島県を考える上での一助になれるように取り組んでいきたいと考えています。





Q. 県職員を志望した理由について教えてください。

A. 震災当時、私は県外の大学に在籍しておりました。福島県の為に何かできることはないかと漠然と考える中で、国の職員よりも直接的に県の復興に携わることができ、市町村の職員よりも全県的に施策を実施することができる県職員を志望しました。



Q. 仕事の中で印象に残ったエピソードはありますか。

A. 令和元年に発生した東日本台風では、河川が氾濫し、いわき市内でも大規模な被害が発生しました。当時私はいわき地方振興局に勤務しており、災害対応に追われていました。その時に、避難者支援のため、避難所へ毛布などの物資を届けた際に、避難されている方から感謝の言葉をいただいたことは今でも鮮明に覚えており、励みとなっています。

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたらどんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「地球温暖化対策」「旅行」「ランニング」「自転車通勤」

Q. 「旅行」について教えてください。

A. コロナの影響もあり、遠出することが難しい状況ですが、福島県内の観光地の魅力を改めて考える良い機会だとも思っています。以前、五色沼自然探勝路を散策し、裏磐梯の自然と五色沼湖沼群の美しさに感動しました。

★ この職員のテレワークの実践について、パンフレットに掲載中です！ぜひご覧ください！